

豊橋市自然史博物館開館20周年記念シンポジウム

「復元－恐竜のすがたにせまる－」 報告書



豊橋市自然史博物館

2008

豊橋市自然史博物館開館20周年記念シンポジウム

「復元ー恐竜のすがたにせまるー」

報告書

豊橋市自然史博物館

2008

口絵



口絵1 エドモントサウルス展示室壁画 下絵(小田 隆 作)



口絵2 エドモントサウルス展示室壁画 完成原画(小田 隆 作)



Tanaka (1977), Kawai (1977) をもとに改編

口絵3 日本産恐竜化石産地



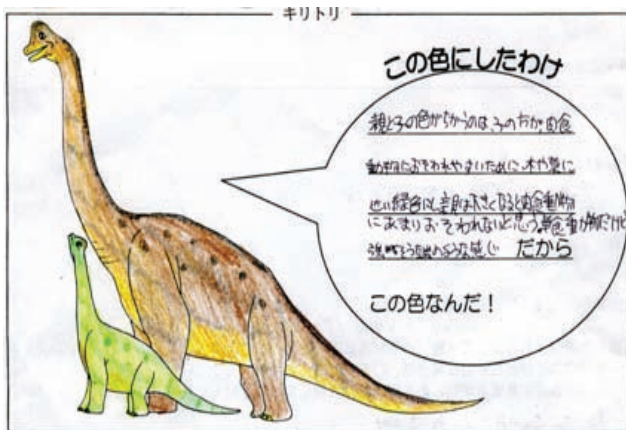
口絵4 手取層群恐竜化石産地



口絵5 自然史講座「ユアンモウサウルスを復元しよう」模型着色の様子



口絵6 ユアンモウサウルス復元模型の展示



口絵7 野外恐竜ランド「ブラキオサウルスの色募集」最優秀賞 森長夕雅さんの作品



口絵8 色塗り替え後のブラキオサウルス親子



口絵9 野外恐竜ランド(1992年)



口絵10 野外恐竜ランド(2008年)



口絵11 開館当時の自然史博物館全景(1988年)



口絵12 改装前のアナトサウルス(現エドモントサウルス)展示室

発刊にあたって

豊橋市自然史博物館は1988年5月1日に誕生し、今年の5月1日で20歳になりました。人間でいえば成人となったこの時に、博物館職員一同は、この博物館にふさわしい記念行事を開催したいと考えました。どのような催しを行うかについて議論をしましたが、恐竜類がこの博物館展示物の中心になっていること、そして今年の4月に中生代展示室の改装が終了し、恐竜類の展示が格段に充実したことを考慮して、恐竜に関するシンポジウムを同博物館で7月13日に開くことにしました。

私たちの頭の中にある恐竜の姿は、復元化石標本、立体復元模型、復元画などから得られたものです。復元は恐竜研究の重要な作業であります。そこでシンポジウムの具体的なテーマを恐竜の復元にしました。このテーマのよい点は、1) 恐竜の復元については子どもから大人まで幅広い年齢の人々が興味を持っていること、2) 専門家と専門家以外の人々が同じ土俵で議論し合うことができること、3) 復元の理念や方法に焦点を合わせた討論会や研究が案外少ないことなどであります。

恐竜骨格標本の組み立て方の変遷と恐竜標本の効果的展示方法、恐竜の復元画と立体復元模型の作成手法とその工夫、恐竜発掘の最新情報に焦点を当てた四つの講演と講師と一般参加者協同の討論をシンポジウムの内容としました。講師にはそれぞれの分野で現在おおいに活躍されている方々をお願いしました。

シンポジウムには249名の参加者がありました。参加者の大部分はこの分野の専門家ではない方々で、子どもから大人まで幅広い年齢にわたっていました。この参加者の数と年齢構成は、ほぼ私たちが期待した通りであります。各講演は参加者の知的好奇心を十分満足させたと思います。ただし、総合討論については、話題が分散したこと、また突っ込み不足で少し物足りなかったという指摘がありました。ここに最新の、そして示唆に富んだ講演と討論の内容を印刷物として出版する運びとなりましたことをよろこんでおります。

ご多忙のところをシンポジウムの講演を快諾していただいた講師のみなさん、そしてこのシンポジウムにご出席いただいた参加者全員に心からお礼を申し上げます。このシンポジウムのために、豊橋市図工・美術研究部にお世話をしていただき、豊橋市立杉山小学校（竹組み、木製、粘土素焼き）、同大清水小学校（流木製、粘土素焼き）および同二川南小学校（木製）の生徒のみなさんに沢山の恐竜模型を制作していただきました。また、杉山小学校PTAおよび関係者の方々には、それらの運搬、展示作業に協力していただきました。これらの力作ぞろいの恐竜模型は博物館前庭と中庭で来場者の目を楽しませてくれました。6月22日開催の当博物館自然史講座「ユアンモウサウルスを復元しよう」受講者のみなさんは、当日つくった復元模型を館内に展示してくれました。ここにあげた皆様方に感謝いたします。

目次

I. シンポジウム「復元-恐竜のすがたにせまる-」	6
中生代展示室-どう見せる恐竜の展示- 松岡敬二	7
古生物復元画ができるまで 小田 隆	12
恐竜の復元模型について 荒木一成	16
福井の恐竜-最新情報と博物館展示- 東 洋一	19
総合討論	24
シンポジウム アンケート結果	28

II. シンポジウム関連イベント	29
(1)恐竜造形	29
(2)自然史講座「ユアンモウサウルスを復元しよう」	32
(3)ブラキオサウルスの色募集と野外恐竜ランドの恐竜模型修繕	35

III. 20年のあゆみ	37
--------------	----
